

## 会社概要

株式会社Agnaviは1合180mLの日本酒ブランドを展開するスタートアップ企業です。全国約200種類の日本酒を取りまとめて販売しております。現在、取引蔵元は100蔵、世界10か国へ輸出しています。

- ◆ 創立: 2020年2月27日
- ◆ 本社: 神奈川県茅ヶ崎市、(工場)埼玉県比企郡小川町
- ◆ 資本金: 55,966,000円
- ◆ 人数: 20名
- ◆ 株主: 東洋製罐グループホールディングス、三菱UFJキャピタル、JR東日本スタートアップ



- ◆ 販売先: TazakiFoods(英国)・CitySuper(香港)・三菱食品・日本アクセス 伊藤忠食品・三井食品・日本酒類販売・イオンリカーなど
- ◆ 仕入先: 120蔵元、住友グローバルロジスティクス、日本通運、佐川急便 東洋製罐、宇徳(商船三井グループ)、トッパンインフォメディアなど

### ◆ 行政との関わり

令和6年1月、農林水産大臣より「輸出事業計画」の認定事業者

- ・ 農水省: 農林水産物の輸出促進対策委員会 登壇(2回)
- ・ 財務省: 全国財務局長会議 特別調査 掲出
- ・ 国税庁: 第4回日本産酒類のブランド戦略検討会に登壇 酒類事業者向け補助金を活用した取組事例集へ掲出
- ・ 復興庁: 福島県浜通り地域での事業採択(補助金なし)

## ビジネスモデル

### 課題

#### 課題1

- ・ 消費量の大幅低下

#### 課題2

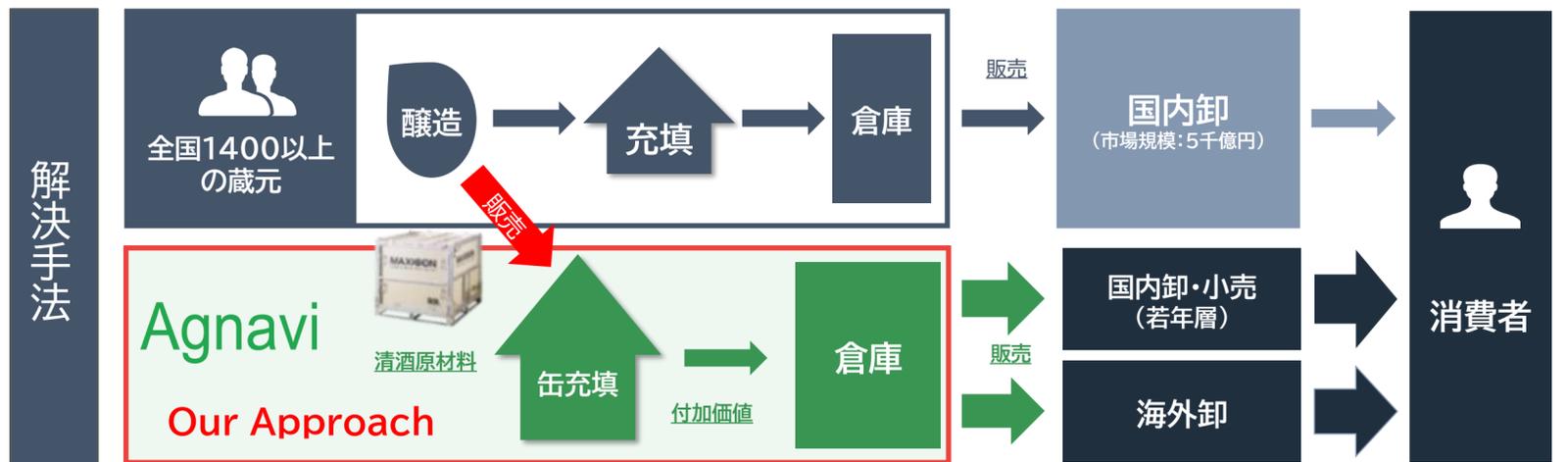
- ・ 瓶不足・瓶代高騰

#### 課題3

- ・ 既存流通から脱却

#### 課題4

- ・ 設備更新/投資



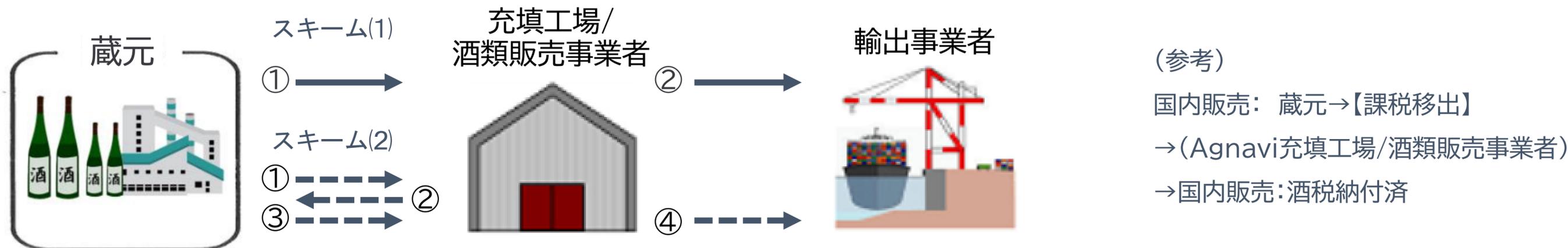
蔵元様からタンクで日本酒を仕入れ、缶充填&販売を一括して行う。



## 現状スキーム

スキーム(1): 蔵元→【課税移出】→(Agnavi充填工場/酒類販売事業者)→輸出

スキーム(2): 蔵元→【課税移出】→Agnavi充填工場→蔵元(充填後に返品) →  
→【未納税移出】→(Agnavi輸出業者の保税蔵置場)→輸出



## 課題点

**スキーム(1):**既に酒税納付済であり輸出に伴って還付を受ける手段が無く、相当分がコストとして転嫁されることが輸出促進における阻害要因となる。

**スキーム(2):**【未納税移出】の体裁を整えるためだけに蔵元に返品を行うため、その移送に伴うコスト・時間・手間を要し、上記「スキーム(1)」の方法よりも実コスト負担が大きい。

## 実現したい内容

酒類の充填等加工を行う業者が、加工した酒類を、製造場を物理的に通過させなくても、酒税の免除を受けて直接的に輸出できるスキームを構築し、輸出業務の簡素化を行いたい。  
(8月26日諮問会議資料における「規制改革事項」欄の記載)

